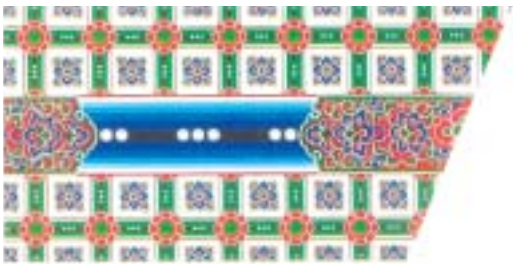


# 建造物彩色の保存と修復

## 日本および東アジアの社寺を中心に

## 目次

社寺建造物装飾彩色研究の意義	近畿大学 櫻井 敏雄	4	
序論／歴史的経過	主として古代を中心に／装飾彩色研究の必要性と意義／建築彩色の研究の諸問題		
文化財保存における模写の役割	京都嵯峨芸術大学 箱崎 睦昌	14	
模写／模写事業の始まり（法隆寺模写について）／法隆寺以降の模写事業／建造物の文様彩色模写事業			
模写事業の意義／模写事業の問題点および対処／模写の形態／あとがき			
御香宮神社本殿の彩色復原について	京都府教育庁文化財保護課 奥野 裕樹	20	
御香宮神社の概要／本殿の概要／修理工事の概要／調査方法／彩色の時期および経過／まとめ／今後の課題			
社寺建造物装飾彩色の修復	剥落止め処置について	(財)元興寺文化財研究所 山内 章	24
処置剤の選択／剥落止めの処置事例／今後の課題			
首里城の建築彩色	(株)国建 福島 清	28	
首里城復原の経緯／首里城の彩色の復原／正殿建築の彩色の復原経過／正殿彩色の特徴			
日光社寺建造物彩色について	(財)日光社寺文化財保存会 田村 洋一	32	
社寺建造物彩色の復原修理	国宝大徳寺唐門彩色復原について	(有)川面美術研究所 荒木かおり	36
はじめに／修理前状況／彩色復原の工程／結び			
重要文化財本願寺大師堂の装飾および彩色技法に関する考察	京都府教育庁文化財保護課 菅澤 茂	40	
文化年間修理の背景／内部装飾について／まとめ			
安東鳳停寺大雄殿の丹青様式	韓国丹青文化財修理技術者 金 京燮	56	
鳳停寺大雄殿の重建／鳳停寺大雄殿丹青の様式的特徴／鳳停寺大雄殿丹青の意義			
台南市三級古蹟興濟宮建築彩色の修復研究	国立文化資産保存研究中心籌備處 李 麗芳	62	
研究の起案／台湾と日本の共同研究者／本案研究の経過／これまでの研究成果／本案における台湾と日本の比較研究			
これからの研究課題と展望			
国立文化資産保存研究中心の発展とこれからの経営	国立文化資産保存研究中心籌備處 楊 宣勤	68	
はじめに／国立文化資産保存研究中心籌備處の紹介と準備経過／国立文化資産保存研究中心の成果			
国立文化資産保存研究中心の発展とこれからの経営／おわりに			
台湾台南市興濟宮・王大宗祠扉絵復原模写について	京都嵯峨芸術大学 仲 政明	72	
序文／概要／模写の重要性／模写方針／今後の課題			
台湾寺廟彩絵の修復	興濟宮を研究対象として	修復研究所21 村松 裕美	76
正面扉門神彩絵一点／正殿壁画彩絵泥塑雲龍図／梁彩絵、柱、御神殿正面柱			
コラム			
本願寺派本願寺御影堂北余間小天井調査と復原	(有)川面美術研究所 大道 優子	48	
京都府教育庁文化財保護課 引間 俊彰			
台湾と日本の饅絵	日本植民地時代左官職人の動向を中心に	(財)元興寺文化財研究所 米村 祥央	52
左官と泥塑剪黏師の出会い／現代台湾城市から考える／おわりに			
豚血下地	(財)元興寺文化財研究所 山内 章	55	





# 社寺建造物装飾彩色の修復 剥落止め処置について

(財)元興寺文化財研究所 山内 章

わが国の神社や寺院の建造物を装飾する彩色の修復は、外表は塗り直し、建物内部は剥落止め処置を主体とした現状保存が基本と考える。剥落止めは剥離した絵具層(層状剥離)の接着と、固着力が弱くなり粉状に剥落しつつある彩色(粉状剥落)の強化を行う処置である。建造物の場合、処置を行う箇所は柱や壁などの立面や天井などの逆さ面であり、膠や合成樹脂など液状の処置剤は流れ落ちやすく、また浸透させにくい。本稿では、膠の特性をいかした剥落止め処置方法と、膠を使った処置の今後の取り組みについて紹介する。

## 処置剤の選択

### 一、層状剥離

層状剥離の剥落止め処置では、剥離箇所の間隙に注入した処置剤の歩留まりを第一として、次の四点を基本要件として処置剤を選択する。

剥離箇所に注入した処置剤は、絵具が接着するまで接着界面になるべく多くとどまること。このため、処置剤は粘度が高く、液垂れしにくいものが望ましい。



写真1 兵庫県川西市、勝福寺本堂内外障壁正面の装飾彩色



写真2 剥落止め処置前



写真3 剥落止め処置後

絵具層の剥離部分の間隙は狭く、処置剤の注入は外径・六五ミリほどの細い注射針や極細の面相筆を用いて行う。このため、注入時の処置剤は粘度が低く、流動性のよい液体が望ましい。

彩色表面に付着した処置剤は容易に除去できること、再処置ができること。

上記のことは、粘度について相反する状態を示しているが、(株)ホルベイン工業から市販されている兎膠のようなゲル化温度の高い膠を使えば、これらの要件に適応すると考えた。湯煎で温めた膠液は注射器で注入できるくらいに粘度が低くなり、温度が下がるとゲル化して粘度が高くなる。この性質をいかして兎膠で剥落止め処置を行ったところ、剥離箇所に注入した膠液はすぐにゲル化が始まり、粘度が高くなることで液垂れが少なく、比較的容易に絵具層を接着することができた。この処置は、処置場所の気温と膠液の濃度とのかねあいが保



写真4 天井絵の剥落止め処置 — 長野県小布施町、岩松院本堂天井絵



写真5 剥落止め処置